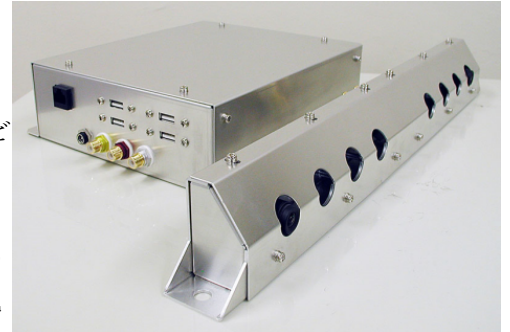


次世代モビリティ・電気自動車研究開発向けリアルタイム画像認識モジュール 「RoboVision & RoboVision SDK 2011」発売

株式会社ゼットエムピー(本社:東京都文京区、代表取締役社長:谷口 恒)は、リアルタイム画像認識モジュール「RoboVision」のソフトウェア開発環境を強化した「RoboVision & RoboVision SDK 2011」をリリースいたしました。「RoboVision」は、2009年11月より販売を開始し、移動車両やロボットの障害物検知のためのビジョンシステムとして、また、ジェスチャインタフェースの研究などの用途にて、自動車・電機・IT業界にご活用頂いています。今回、様々な曲率の白線を検知する機能と、ノイズに強いステレオ視アルゴリズムを搭載したことにより、これからの電気自動車や次世代モビリティに必要な運転支援や自動運転といったアプリケーションの研究開発がさらに進めやすくなります。価格は一般540,000円(税別)、アカデミック430,000円(税別)で、本日より受注を開始いたします。



RoboVision & RoboVision SDK 2011
(オプションのケース・ブラケット付き)

【特徴】

- ・画像認識アルゴリズム検証のオールインワン環境。IMAPCAR®(ルネサスエレクトロニクス社)プロセッサによる高速並列処理を高級言語(C言語)で開発可能
- ・ステレオカメラと、バッテリー駆動可能な自律移動システムなどに使用する上位システム(CPUボード/Linux)とを一体化
- ・レンズゆがみ補正のライブラリ/ツールを付属。ユーザーによるステレオ処理のカスタマイズ/実装も可能
- ・シミュレーション環境としてGUIを備えたソースレベルデバッガを用意。各種(外部変数)パラメータを実時間で実行し、結果画像を見ながら調整が可能

【新機能】

- 様々な曲率の白線の検知が可能に
- ・画面内の輝度の変化や画像上のノイズに強くなり、画面内の任意の本数の白線を検出できるようになりました。画面上をエリア分割し、エリア内でハフ変換を行うことで、少ない処理量で直線を検出でき、かつ、様々な曲率の曲線が認識できます。白地に黒、黒地に白など、輝度変化があれば、あらゆる線の認識が可能となり、容易に実験環境の構築が行えます。
- ノイズに強いステレオ視アルゴリズムの搭載
フィルタを最適化し、新アルゴリズムを搭載しました。ノイズに強くなり、パターンのはっきりしていない対象物に対する距離測定の精度が向上しました。また、少ないパラメータ調整でいろいろな環境に対応できるようになりました。
- IMAPCAR®最新版開発環境を収録
ルネサスエレクトロニクス社高速並列画像認識チップIMAPCAR®の開発環境「sdbimap」の最新版を収録しました。



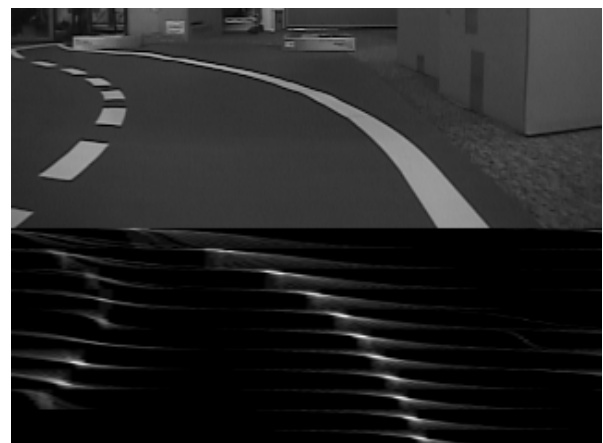
画像処理ボードとCPUボード



ステレオカメラ



白線検知の例



ハフ変換を用いた新しい白線検知アルゴリズム

【価格(税別)】

RoboVision & RoboVision SDK 2011

一般 540,000円、アカデミック 430,000円
(オプション)

•RoboVision専用ケース 40,000円

- RoboVisionのボード類を格納する専用ケースです。ロボット、EV等の移動体への取付けに適しています。

•RoboVision拡張カメラブラケット 70,000円

- RoboVision専用のカメラブラケットです。基線長を100mmから328mmまで7段階に設定可能。広範囲の画像計測等にお使いいただけます。(設定可能な基線長[mm]:100,138,176,214,252,290,328)

【仕様】

画像認識ボード	画像認識LSI	ルネサスエレクトロニクス社 IMAPCAR [®] 100MHz
	メモリ	SRAM 8MBytes
	映像入力	NTSCコンポジット ×2 (カラー1ch or モノクロ 2ch)
	I/O	PCI (PCI104) 電源管理、ビデオ設定用シリアル通信
CPUボード	CPU	AMD Geode [®] LX800 Processor 500MHz
	メモリ	512MBytes
	CF	4GB
	I/O	PCI, RS-232C x4, USB x4, 100 BASE-T
ステレオカメラ	カメラ	NTSC出力 CCDカラーカメラ x2

【本件に関するお問合せ】

株式会社ゼットエムピー 営業部

TEL: 03-5802-6901 / FAX: 03-5802-6908

E-Mail: e-nuvo@zmp.co.jp

■ 株式会社ゼットエムピー

株式会社ゼットエムピー(www.zmp.co.jp)は、2001年1月、文部科学省傘下の科学技術振興機構(JST)の研究成果である人型二足歩行ロボットPINOの技術移転を受け設立。2005年世界初の家庭用二足歩行ロボットnuvoを発売し、2007年には家庭用自律音楽ロボットmiuroを発売。日本ロボット学会実用化技術賞、経済産業省「今年のロボット大賞2007 最優秀中小・ベンチャー企業賞」を受賞。ロボットを活用したエンジニア教育カリキュラム教材e-nuvoシリーズは「今年のロボット大賞2008 優秀賞・中小企業基盤整備機構理事長賞」を受賞。累計3,400台の販売実績を重ねています。また、2009年以降、社会的課題である「安全とエコ」に対しては次世代自動車研究用プラットフォーム「RoboCar[®] 1/10」及び「RoboCar[®] MEV」を、「ヘルスケア」に対してはジャイロ・加速度、地磁気センサー一体型モーションセンサ「IMU-Z」をラインナップに加えるなど、ロボット技術やサービスによるイノベーションを追求し続けています。